つなぐ　戦後73年

世田谷・日体大

# スポーツの喜び　平和あればこそ

## 戦没学生の慰霊式

世田谷区深沢7の日本体育大世田谷キャンパスで6日、第2次世界大戦の学徒動員などで犠牲となった学生約400人の冥福を祈る慰霊式があり、卒業生や職員ら70人が参列した。（神谷円香）

戦時中、日体大の前身の日本体育専門学校からも多くの学生が戦地に赴き、一九三年ベルリン五輪に体操で出場した有本彦六さんら四百人が命を落とした。日体大は五八年に慰霊碑を建立し、今日まで毎日欠かさず花を供えている。

戦後七十年の二〇一五年からは八月に慰霊式を行っており、今年で四回目。松浪健四郎理事長は「平和でなければスポーツを楽しむことはできない。平和のために努力すると誓う」と慰霊の言葉を述べた。

卒業生として、今年三月の平昌パラリンピックにアルペンスキーで出場した小池岳太選手（三七）、アイスホッケーで出場した堀江航選手（三〇）も参列し、献花した。小池選手は「パラリンピックは戦傷病者がきっかけで始まっている。障害を負ってもスポーツができる今の幸せを感じる」と話した。

慰霊碑の前で献花する小池岳太選手＝世田谷区の日体大で

# 仲間忘れない…鎮魂の夏

台東・山谷

## 「彼らが生きた証し共有」

簡易宿泊所が密集する労働者の街・山谷の夏祭りが四、五日、地域にある台東区の玉姫公園（清川二）であった。四日には山谷でこれまで亡くなった日雇い労働者や路上生活者（ホームレス）らを追悼する式があり、労働者らが在りし日の仲間をしのんだ。

仕事が減るお盆の時期に集まり、仲間同士で労をねぎらい合おうと、有志で作る実行委員会が毎夏開催している。故郷に帰れない事情を抱えた人もおり、「お疲れさま」と声を掛け合う場になっている。

地域で亡くなった人たちを追悼した山谷夏祭り（台東区で）（実行委の船元康子さん提供）

### 日雇い労働者ら　夏祭りで追悼

支援する側とされる側を区別せず、参加者みなで行う共同炊事もあり、温かいご飯などが振る舞われたほか、楽器の演奏ステージや屋台の出店もあった。会場は大勢の人でにぎわい、実行委員の広山直美さんは「年に一度の祭りでほっとしてもらえれば」と話していた。

玉姫公園では十三～十五日にも、「東京・山谷日雇労働組合」主催の夏祭りが開かれる。

会場では毎年、公園や路上で倒れたホームレスや、山谷で暮らしていて亡くなった労働者らの遺影などを飾る祭壇を設置してきた。追悼の式では、二〇一〇年ごろから僧侶がお経を読むようになり、昨年からキリスト教の聖職者らも参加している。

炊き出しなどに取り組む市民団体「ほしのいえ」（荒川区）は、約三十年間に亡くなった八十人の名簿を張り出した。代表の中村訓子シスター（七七）は「追悼により、彼らが生きた証しを共有できる。こうして祈ってくれる人がいるとわかれば、安心できる人もいるだろうと祈りをささげていた」という。